

科学研究費助成事業（基盤研究（S））中間評価

課題番号	18H05229	研究期間	平成30(2018)年度 ～令和4(2022)年度
研究課題名	新世代中性子構造生物学の開拓	研究代表者 (所属・職) (令和2年3月現在)	杉山 正明 (京都大学・複合原子力科学研究所・教授)

【令和2(2020)年度 中間評価結果】

評価		評価基準
	A+	想定を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A	順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	A-	概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
	B	研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である
<p>(意見等)</p> <p>本研究は、中性子による散乱測定とその解析手法を開発することにより生体高分子のダイナミクス、特にこれまで実験的に測定の進まなかったドメインの内部運動とドメイン間の共同運動の関連性を調べることに重点がおかれている。</p> <p>中性子溶液散乱法においては、生体高分子のドメインを選択的に重水素化することが新たなタンパク質調製技術を開発する上で重要である。これまで行ってきた開発では全ての対象試料において重水素化に成功しており、順調に研究が進行しているものと認められる。また、この重水素化技術はマニュアル化され一般の研究者にウェブ上で公開しており、この分野全体の基盤形成にも貢献している。</p>		